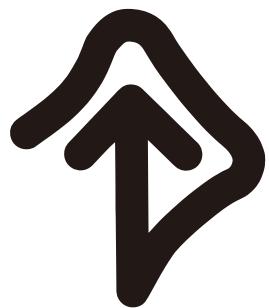


特定非営利活動法人 富山中途失聴者・難聴者友の会

(略称
富難友の会)



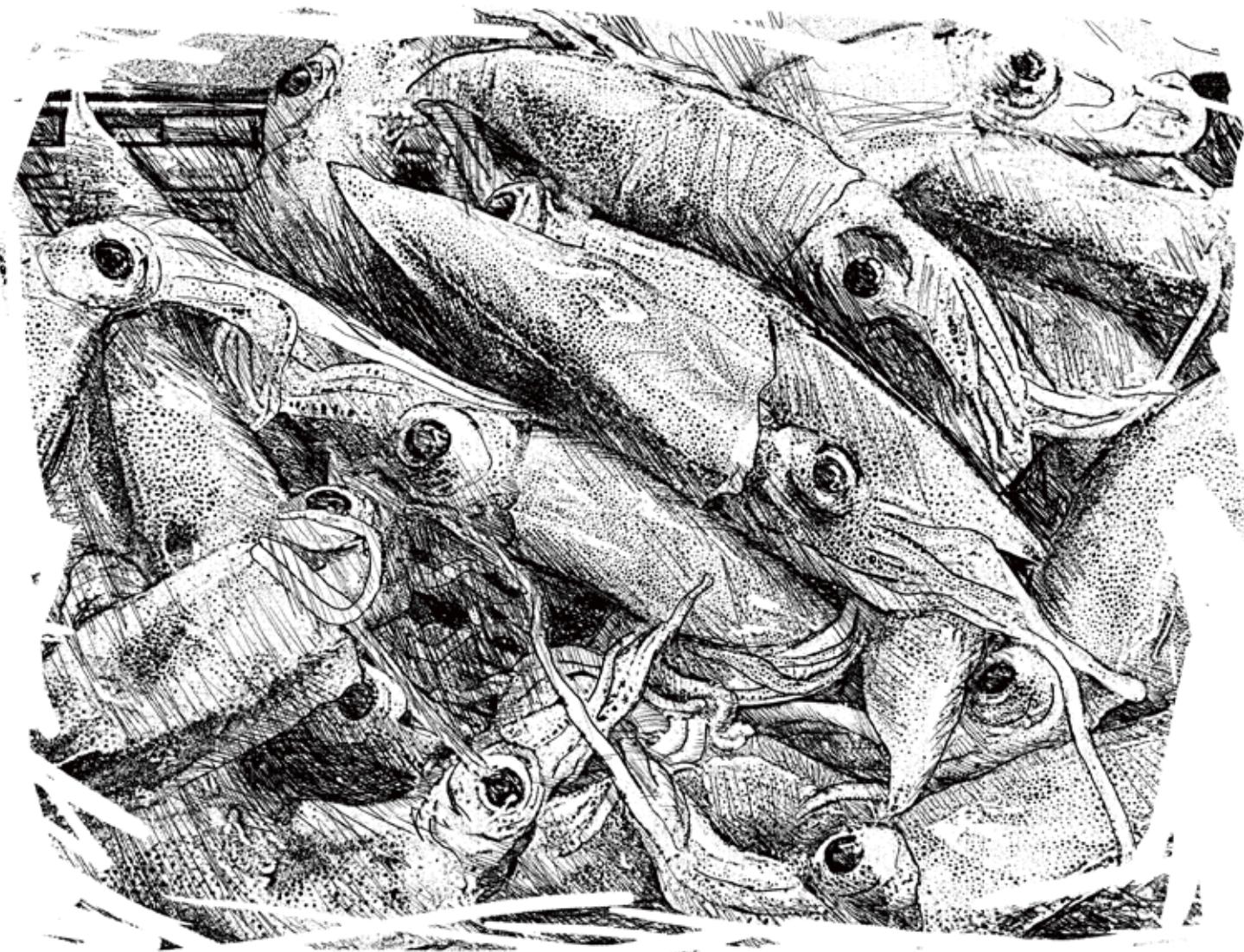
耳マーク

聞こえが不自由なことを表す
と同時に、聞こえない人・聞こ
えにくい人への配慮を表すマ
ークもあります。

とみなん

難聴ってなあ~んだ!

会報



ホタルイカ

特定非営利活動法人 富山中途失聴者・難聴者友の会は、富山県内外に在住する中途失聴者・難聴者をはじめ、広く聴覚障害者全般に対して、その自立を支援し、生活・文化・福祉の向上を図るとともに、社会参加のための方法を提供・支援することにより、地域社会に寄与することを目的とします。

No. 2
2020/6

補聴器を換えると性格も変わる

補聴器を装用するとこんな事が起こりました

福村錦慶

はじめに

生まれた直後は聴覚に異常はなく、5,6歳頃に発音に異常(幼稚な発音のまま)を見つけ出されたので、耳鼻科で精密検査を行った結果、オージオグラムから両耳感音難聴と診断される。3,4歳頃に風邪を多く引き、治すために薬物を注射した。その副作用により、内耳に障害が起こったものと思われる。幸いにも、低音部分の聴力が残っていた為、低音部の音の聞き分けと、言葉の母音の発音はなんとかできる状態であったが、囁き声や高音部の音が全く聞こえない状態だった。さらに、耳鳴り(耳の奥)では多数の蝉が鳴っている状態(18歳で診断)のまま、今日まで補聴器を装用して生活してきました。補聴器装用により起こったできごとについて年代別に話をします。

1. 小学生時代(5歳～9歳)

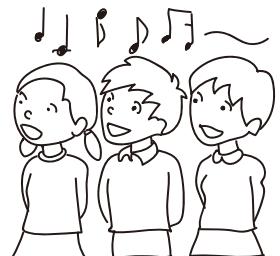
高音部の音に反応することが必要だったため、補聴器を使用して、高音部の音を大きくして内耳に伝えればよい。という周囲の考え方から、利き耳である右側の耳にポケット型補聴器を装着することになった。ただし音には反応するが、言葉の一語一語が聞き取れず、発音はうまく出来なかった(本人には自覚なし)。心配した父に国語の本を音読するようにと毎日言われていたが、自分の発音が聞こえないので、おそらく正しく発音が出来ていなかっただろう。



本を音読しても、
自分の発音が聞
こえない

2. 中学～高校時代

裸耳で電話での会話が遠くて聞き取りにくく、補聴器でも聞き取れなかつたので、電話での会話はしなかつた。部活動は高校3年のとき、コーラス部に入り、発音の訓練のため発声していた。大学受験時、耳の不自由な受験生のための措置をとるようお願いし、2次試験の座席は最前列にしてもらった。この時代は補聴器を使用しない期間があった。



コーラス部に入って
発声訓練

3. 大学時代

大学では講師はマイクを使った話し言葉中心の講義が多く、教室もホール型になるので、補聴器なしでは聞き取れないということが分かっていた。ポケット型補聴器を使用するが、高音部のみの音しか聞き取れないため、音重視の補聴器を使用していた。補聴器店に相談して補聴器(耳掛け型)に変えてみるがやはり高音部の音がかなりきづく聞こえ、言葉を聞き取るための補聴器ではなかつた。こうして社会人7年目までは右側での補聴器の装着が続いていた。



ポケット型補聴器を
使用。言葉が理解
できない

4. 社会人時代

社会人7年目にして、ようやく転機が訪れることになった。ある日新聞の広告に補聴器の無料相談が自宅近くの公民館であると載っていたので、一人で相談に行ってみることにした。

その場では、今までの考えと違ったことを4つ教えられた。一つ目、感音難聴向けの補聴器として音重

視から言葉重視の聞き分けに重点を置く補聴器を使用すること。二つ目、補聴器を片耳から両耳での装着にすること。三つ目、補聴器を耳掛け型から耳穴式へと変えること。四つ目、補聴器を装着から装用へと考えを変えること。この時期に従来の型とは別の補聴器を購入することを決断した。

補聴器を装着するとどうなるのか？

補聴器は初めての耳穴式だった。液体のチューブを両耳に挿入して固まるのを待って無事に左右それぞれの型をとることができた。そして1週間後に補聴器が出来上がった。補聴器を実際に装着する際、補聴器店からは以下の注意があった。

- 両方の耳から一度に大音量が入り込み、頭が回ります。最初の1週間は雑音に我慢すること。
- 耳穴はいつも綺麗にふき取る事。補聴器もキチンと手入れする事。

実際、装着すると、以下のようなことが起こった。

- 音が轟音として聞こえました。→頭痛(前頭葉)が多発しました。疲れも重く残る。
- 音がスローモーションのように、ひとこま、ひとこまが分かるようになった。
- 自分の声がとても低い声で大音量だった。今まで聞いたことのない音が一体何の音なのか探りあてるのに精一杯であった。とにかく聞こえる音が大音量で自分の足音もキチンと聞こえました。
- 鳩の鳴き声が今まで出だしの一部しか聞こえなかったが全部聞こえるようになった。
- 海外旅行(米国:ニューヨーク)をすることで日本と米国での犬の鳴き声の違いが分かるようになった。
- 音環境がガラリと変わりました。(健聴者は音を聞きながら寝ていることが理解できた。だから、母親は赤ちゃんの夜泣きに気がつくのですね。)
- どの方向から音が聞こえるのか方向性が分かるようになりました。背後の音に反応ができるようになった。
- 音に対する反応が以前より速くなった。
- 会話が早くできるようになった。
- 電話での会話が以前より弾むようになった。
- 高音部の音が以前より分かるようになった。
- 言葉(明瞭度)が以前とくらべて違いが分かるようになった。
- 性格が明るくなったと言われるようになった。
- 発音が綺麗になった(こもった声がなくなった)

補聴器を両耳に装着以後は、音読ドリルや発声トレーニングを行うことを継続し、また、人と会話を多くすることで、自分の声を聞きながら補聴器を装用して今日に至っている。

「聞こえのサポート講座」報告

福村錦慶、小中栄一、中橋露子

令和元年度「聞こえのサポート講座」の概要とアンケート結果

富山市主催の「聞こえのサポート講座」は、加齢に伴い耳が聞こえにくくなる等の変化が人間関係をはじめとした生活のしづらさにつながることから、日頃から高齢者および障害者に関わる方を対象として、耳が聞こえにくい方についての理解や配慮について学ぶことを目的として講義を行いました。この講座は、平成30年度より始まり、今回で2年目となります。主な受講者は、民生・児童委員、地域包括支援センター、介護・障害サービス事業所、医療関係者など参加者は約80人であった。

<講座の主な内容>

- ・耳が聞こえにくくなるとはどういうことか
- ・生活上どのような不便さがあるか
- ・聞こえのサポート、コミュニケーションの方法について
- ・グループでの話し合い、質疑応答
- ・簡単な手話の学習

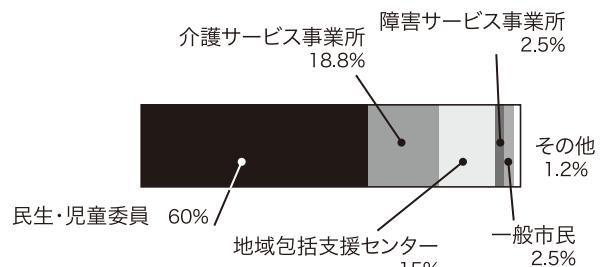


■「聞こえのサポート講座」アンケート集計

- ・1回目：2019年10月29日(火)、アンケート回収枚数 37枚
- ・2回目：2019年11月19日(火)、アンケート回収枚数 33枚
- ・3回目：2019年12月17日(火)、アンケート回収枚数 10枚

受講者の所属(3回トータル)

- | | |
|-------------|-----|
| ・民生委員児童委員 | 48人 |
| ・介護サービス事業所 | 15人 |
| ・地域包括支援センター | 12人 |
| ・障害サービス事業所 | 2人 |
| ・一般市民 | 2人 |
| ・その他 | 1人 |



■アンケート設問的回答

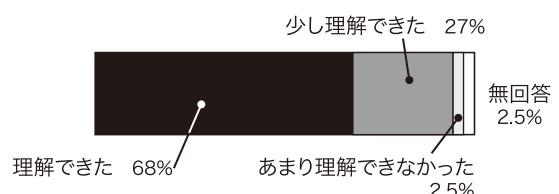
(1) あなたの職場や地域、ご家族に、聞こえない、聞こえにくい人がおられますか。

- | | |
|--------|-----|
| ・いる | 63人 |
| ・いない | 18人 |
| ・わからない | 0人 |



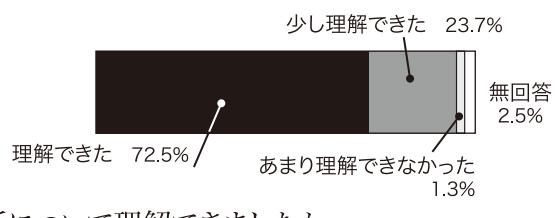
(2) 耳が聞こえにくくなると、どんな聞こえ方になるかについて、理解できましたか。

- | | |
|--------------|-----|
| ・理解できた | 55人 |
| ・少し理解できた | 22人 |
| ・あまり理解できなかった | 2人 |
| ・無回答 | 2人 |



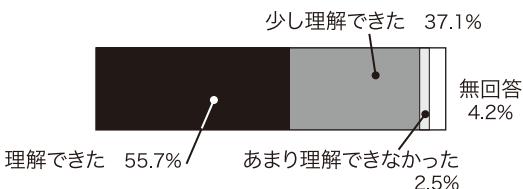
(3) 耳が聞こえにくくなると、どのような不便があるのか、配慮とサポートについて理解できましたか。

- | | |
|--------------|-----|
| ・理解できた | 58人 |
| ・少し理解できた | 19人 |
| ・あまり理解できなかつた | 1人 |
| ・無回答 | 2人 |



(4) 福祉制度の説明、コミュニケーションの方法、手話について理解できましたか。

- | | |
|--------------|-----|
| ・理解できた | 39人 |
| ・少し理解できた | 26人 |
| ・あまり理解できなかつた | 2人 |
| ・無回答 | 3人 |



(5) 今後、聞こえのサポート講座を開催する場合、どんな内容にしてほしいですか。

- ・手話の仕方をもう少し多くしてほしい (民生・児童委員 以後、「民生・児童」と表示)
- ・今回参加してよかったです (民生・児童)
- ・補聴器で全て聴こえていると思ったが、違うということが理解できてよかったです (民生・児童)
- ・職場などディサービスの職員にも研修してほしい (介護サービス事業所 以後、「介護サービス」と表示)
- ・制度や補助の説明をもっと詳しく知りたい (介護サービス)
- ・福祉制度の利用の方法など、詳しく知りたいと思いました。申請の方法や、障害者手帳、補装具の支給や修理について (介護サービス)
- ・要約筆記の勉強をしたいと思いました (介護サービス)
- ・あらためて、コミュニケーションの方法は参考になりました (民生・児童)
- ・手話をもっと実際にやってみるコーナーがあるとよかったです (介護サービス)
- ・言葉を簡潔にする事の大切さを感じた (民生・児童)
- ・今回初めてだった。補聴器も実際に使って難しい事が分かりました (民生・児童)
- ・今まで知らないことがたくさんありました。とても勉強になりました (民生・児童)
- ・高齢になると難聴者が多くなる理由や原因と難聴防止の方策があれば知りたい (民生・児童)
- ・まずデジベルをきちんとわかるために耳鼻科を受診するということが大切であることがわかりました。手話と表現が連動して相手に伝わることが分かりました。手話にすこし興味がわきました。(介護サービス)
- ・聴覚障害者の方へのかかわり方、方法を具体的に教えていただけたらありがとうございます (民生・児童)

※(重複したご意見、感想などは編集致しました)

